

題材名：いろいろな音のひびきをかんとろう

～教材曲「おかしなすきなまほう使い」～

男子19名 女子21名 計40名

指導者 垣内 加純

題材について

○題材観

本題材は、学習指導要領の内容「A表現(3)ア 声や身の回りの音の面白さに気付いて音遊びをすること。」にかかわる学習である。

「おかしなすきなまほう使い」は、歌詞の内容が親しみやすいので、愉快的なまほう使いの様子を思い浮かべて、歌詞が表す場面にふさわしい歌い方を工夫することができる。ナレーションや台詞も示され、魔法に似合う音を作って表現したりする総合的な音楽表現を楽しむことができる。音楽づくりの活動では、木、金属、皮など楽器の材質の違いによって音の特徴が異なることや、同じ楽器でも打つ位置や強さ、マレットなどを変えると、全く違った音が出ることに気付くことができ、「まほうの音楽」のイメージに合う音を探す活動を通して、楽器の音の響きの長短や音色の違いを感じることができる。「音の特徴に注目して聴こうとする態度」を育てるのに有効な活動である。

「パフ」は、親しみやすい旋律で音の重なり方も平易であり、子どもたちにとって取り組みやすい楽曲である。主な旋律を中心に、副旋律のパート、響きを支える低音のパート、リズム伴奏のパートで構成されており、充実した音の響きを楽しむことができる。

「トランペット吹きの休日」は、3本のトランペットによる美しい響きと歯切れの良い旋律からなり、親しみやすい楽曲である。トランペットの音色や、3本のトランペットが重なり合う響きの美しさを味わって聴くことができる。「アレグロ」は2本のホルンで演奏され、柔らかい音色を味わって聴くことができる。反復が多いことや2本のホルンの旋律の動きが明確なことから、子どもたちが曲の特徴をつかみながら聴くことができる。

○児童観

本学級の児童は、授業の中でも音楽が流れると一緒に口ずさんだり、拍子に合わせて自然に体を揺らしたりする児童が多い。歌唱については、全体的に歌声はきれいだが、高音に苦手意識を持つ児童が多い。これから自然で無理のない発声を指導していく。

第3学年の音楽づくり「手拍子でリズム」で、反復や変化を生かしたまとまりのあるリズムをつくる経験をしている。音楽を聴いて、『音楽の縦と横』『くり返し』『問いと答え』『音の重なり』などの工夫を見つけ出すことが難しく、これらの工夫にはどのような効果があるのか、音楽を構成する要素の工夫とその効果の結び付きについては課題がある。

○指導観

楽曲「おかしなすきなまほう使い」では、自分のもつまほうの音のイメージに合う音(楽器)

を探し、友達と楽器を組み合わせたたり音を重ねたりする創造的な活動を中心に学習を進める。

課題の設定では、歌詞が表す場面にふさわしい歌い方を工夫し、「魔法使いはどんな性格だろう」「どうやって魔法をかけるのかな」など想像力を働かせる。

情報の収集では、様々な楽器に触れて音色に注目する活動を入れる。一つの楽器でも奏法によって色々な音がでることを発見させ、楽器の演奏の仕方を試しながら、音に注目させる活動を十分にさせる。その時、楽器の素材や響きの長短にも注目させる。それにより、自分の表現のイメージを広げ、自由な発想を生かして楽器を選び、重ねて表現する楽しさが味わえる活動につながっていく。

整理・分析では、気に入った楽器（音）を一つ選び、音を図形で表す活動も入れ、聴き取った音色を視覚的に表現する。

まとめ・創造・表現では、友達の演奏を聴くことにより、音楽表現の多様性や面白さに気付くことができ、自分たちと友達との表現を比べて共通点や相違点を見付け、互いの工夫の良さや面白さを認め合ったり、音楽づくりの楽しさを味わったりすることができる。

振り返りでは、トランペットとホルンの音楽を聴き比べることにより、それぞれの楽器の音色や響きの違いを感じることができ、自分たちの演奏を振り返ることができる。

題材の目標

- 音の特徴や音色の違いを感じ取って、想像豊かに聴いたり表現したりすることができる。
- イメージに合った音を探して、表現の仕方を工夫することができる。

題材の評価規準

	ア音楽への関心・意欲・態度	イ音楽表現の創意工夫	ウ音楽表現の技能	エ鑑賞の能力
学習活動における具体的評価規準	①歌詞が表す場面を思い浮かべ、それにふさわしい歌い方を工夫し、思いや意図を持って歌う学習に取り組んでいる。 ②それぞれの楽器の音色の特徴や美しい響きに関心をもって、進んで取り組んでいる。 ③金管楽器の音色や旋律の特徴に興味・関心を持ち、旋律の反復や変化が生み出す楽曲の構造に気を付けて聴く学習に進んで取り組もうとしている。	①歌詞の内容を生かした表現を工夫し、どのように歌うかについて、自分の考えや願いをもっている。 ②音色や響きの違いを感じ取って、イメージに合った音の出し方や組み合わせ方を工夫している。 ③互いの楽器の音、音の重なりを聴き取り、音を合わせて演奏する表現を工夫し、どのように演奏するかについて自分の考えや願い、意図をもっている。	①音の重ね方や反復、変化などの音楽の仕組みを生かして、音を音楽に構成している。 ②楽器の音色に気を付けてリコーダーを演奏している。 ③友達の楽器の音やリズムを聴きながら、自分の音を合わせて表現している。	①楽器の音色や重ね方、組み合わせ方の違いや美しさを感じながら聴くことができる。 ②金管楽器の音色や旋律に気を付けて聴き、旋律の反復や変化が生み出すよさや面白さを感じ取りながら、楽曲の構造に気を付けて聴いている。

題材で育成したい資質・能力

	A	B
【主体性】	・楽器の音の特徴や音色を生かした表現に進んで取り組もうとしている。	・楽器の音色に着目して音楽づくりの楽しさを実感しながら取り組んでいる。
【思考力】	・楽器の音色を聴き取り、その特徴を感じ取りながら色々な音の響きや組み合わせ方を工夫し、どのように音楽をつくるかについて発想を持っている。	・楽器本来の音色を大切に、楽器の組み合わせや重ね方を工夫しながら自分たちのイメージに近づくよう試行錯誤している。
【自己理解】	・友だちの楽器の音を聴きながら自分の音を合わせ、合奏の楽しさを感じながら、自分の演奏の課題に気付いている。	・友だちの楽器の音を聴きながら自分の音を合わせ、合奏の楽しさを感じている。

全8時間

次	時	学習内容	評 価				評価方法	
			関	創	技	鑑		
一	1	<p>課題の設定（1）</p> <p><おかしなすきなまほう使い></p> <p>○魔法使いの様子を思い浮かべながら、表現を工夫して歌う。</p> <p>・「魔法使いはどんな性格だろう」</p> <p>「どうやって魔法をかけるのかな」</p>	○				<p>・歌詞が表す場面を思い浮かべ、それにふさわしい歌い方を工夫し、思いや意図を持って歌う学習に取り組んでいる。</p> <p>(ア) ①【リズム】【旋律】</p>	行動観察
二	2	<p>情報の収集（1）</p> <p><音楽づくり></p> <p>○楽器の音色の特徴の注目するポイントについて知る。</p> <p>・楽器の材質（木・金属・木）</p> <p>・響きの長短</p> <p>○いろいろな楽器を鳴らして、それぞれの楽器の音色の特徴を調べる。</p> <p>○前時に調べた楽器の中で気に入った楽器（音）を一人1つ選び、「まほうの音楽のもと」を図形楽譜でつくる。</p> <p>【本時】</p>	○				<p>・それぞれの楽器の音色の特徴や美しい響きに関心をもって、進んで取り組んでいる。</p> <p>(ア) ②【音色】【強弱】</p>	行動観察 ワークシート

	3	<p>整理・分析（3）</p> <p>○図形楽譜をもとにグループで音（楽器）の組み合わせ方を考える。</p> <p>・音づくりのわざを提示する</p>	○			<p>・音色や響きの違いを感じ取って、イメージに合った音の出し方や組み合わせ方を工夫している。</p> <p>（イ）②【音色】【音の重なり】</p>	行動観察 ワークシート
	4 ・ 5	<p>○「まほうの音」を完成させグループ練習を行う。</p>			○	<p>・音の重ね方や反復、変化などの音楽の仕組みを生かして、音を音楽に構成している</p> <p>（ウ）①【音の重なり】【反復】【変化】</p>	
	6	<p>まとめ・創造・表現（1）</p> <p>○お互いの演奏を鑑賞し合う。</p> <p>・ワークシートに良い点、工夫点を記入する。</p>			○ ○	<p>・友達の楽器の音やリズムを聴きながら、自分の音を合わせて表現している。</p> <p>（ウ）③【音色】</p> <p>・楽器の音色や重ね方、組み合わせ方の違いや美しさを感じながら聴くことができる。</p> <p>（エ）①【音色】【音の重なり】【変化】</p>	演奏聴取 ワークシート
三	7	<p>振り返り（2）</p> <p><パフ></p> <p>○曲想をつかんで歌詞で歌う。</p> <p>○リコーダーで主旋律と副旋律を演奏する。</p> <p>○重なり合う楽器の音の響きを感じ取りながら合奏をする。</p>	○		○	<p>・それぞれの楽器の音色の特徴や美しい響きに関心をもって、進んで取り組んでいる。</p> <p>（ア）②【音色】</p> <p>・楽器の音色に気を付けてリコーダーを演奏している。</p> <p>（ウ）②</p>	演奏聴取
四	8	<p><トランペット吹きの日></p> <p><アレグロ></p> <p>○金管楽器について知り、トランペットとホルンの曲を聴き比べる。</p>	○		○	<p>・それぞれの楽器の音色の特徴や美しい響きに関心をもって、進んで取り組んでいる。</p> <p>（ア）②【音色】【旋律】</p> <p>・金管楽器の音色や旋律に気を付けて聴き、旋律の反復や変化が生み出すよさや面白さを感じ取りながら、楽曲の構造に気を付けて聴いている。</p> <p>（エ）②【音色】【旋律】【反復】【変化】</p>	ワークシート

本時の学習

(1) 本時の目標

- それぞれの楽器の音色の特徴や美しい響きに関心をもって、進んで取り組もうとする。

(2) 本時の評価規準

- それぞれの楽器の音色の特徴や美しい響きに関心をもって、進んで取り組んでいる。【意】

(3) 本時の学習展開（2時間目／全8時間）

学習活動 ○主な発問 ・予想される児童の反応 □思考の場の工夫	◇指導上の留意事項 ★めざす児童の姿 ◆「努力を要する」状況と判断した 児童への指導の手立て	評価規準〔観点〕 (評価方法) ◎本時で付けたい力
1 「おかしのすきなまほう使い」の歌を歌う。 2 めあての確認をする。	◇歌詞が表す場面を想像しながら歌うよう声がけをする。	
めあて いろいろな楽器を鳴らして、「まほうの音楽のもと」をつくろう。		
本時のゴールの見通し（評価基準）		
A：それぞれの楽器の素材や音色の特徴，美しい響きに関心を持ち，進んで取り組んでいる。 B：それぞれの楽器の美しい音色に関心を持ち，楽器演奏を楽しんでいる。		
3 鉄琴を例に，高さを変えた音やマレットを変えた音など，いろいろな音の出し方を教師が試す。		
4 いろいろな楽器を鳴らし，楽器の材質や響きの長短を調べ，鳴らし方，たたく場所での音の違いを発見し，ワークシートに記入する。	◇鉄琴以外の楽器の鳴らし方などは説明せず，個人で音の鳴らし方や場所を発見させる。 ◆楽器の前で鳴らし方が分からない児童には，一緒に音の鳴らし方を探す。	◎それぞれの楽器の音色の特徴や美しい響きに関心をもって，進んで取り組んでいる。 【意】（行動観察・ワークシート）

5 グループで調べた楽器の音色，鳴らし方について意見交換をし，どの楽器を使用するか話し合う。

6 それぞれ担当の楽器の図形楽譜を作成し，「まほうの音楽のもと」を完成させる。

7 振り返りをする。

◇教師が作った「まほうの音楽のもと」を提示する。

◇“音づくりのわざ”

- ・速くしてみる
- ・リズムを変えてみる
- ・大きさを変えてみる
- ・高さを変えてみる
- ・くりかえしてみる
- ・音を変えてみる

★めざす児童の姿

楽器は鳴らし方によって音色が変わることが分かった。また楽器の材質で音の響きの長短が違うことも分かったので，自分たちのイメージする「まほうの音楽」を作りたい。